

◎日本公認会計士政治連盟インタビュー 武見敬三 参議院議員 後編

「アジア健康構想」と公認会計士

武見議員の「アジア健康構想」は、アジアの高齢化問題を解決するソリューション事業を生み出そうとしています。社会福祉法人、医療法人のグローバル展開というチャレンジにおいて、公認会計士の果たす役割は大きいと語っていただきました。

【インタビュー】 山田治彦政連幹事長、梶川融公会計協議会会長

参議院議員
武見敬三

アジアで進む高齢化問題

山田 武見議員の「アジア健康構想」をお聞かせいただけますか。

武見 「アジア健康構想」は一昨年、自民党に提案して採択された後、政府の正式な政策にいただきました。高齢化先進国である日本のノウハウを提供して、アジアにおける高齢化問題を緩和させると同時に、日本の高齢化問題、医療問題も解決していこうという考え方です。

山田 高齢化社会の定義はあるのですか。

武見 国連の定義では、人口の7%以上が65歳以上になると『高齢化社会』、14%以上で『高齢社会』、21%以上で『超高齢社会』です。日本は1970年に高齢化社会に入り、24年後の94年に高齢社会になりました。いまは27%を超えて超々高齢社会です。

でもこの状況は日本だけではなく、韓国は2000年に高齢化社会に入ってわずか18年で高齢社会になりました。中国も2000年に高齢化社会に入り、23年で高齢社会になっ

ていきます。そこで問題なのは、これらの国は一人あたりの国民所得が十分に高くなる前に、高齢者人口が増えてしまうことです。しかも皆保険制度や介護保険制度ができる前に増えてしまいますから、日本よりも厳しい問題になることは必定です。

アジアの国々と日本の違い

武見 働き手人口と、働き手でない(少年と老年)人口の割合を『従属人口指数』と言いますが、2000年以降、アジアの国の従属

人口指数は上昇に転じ、2020年以降はV字型に上がっていきます。これから急激に増える高齢者に対する医療、介護、福祉、年金制度をつくっておかないといけません。時間的ゆとりがありません。日本は1960年頃に従属人口指数のピークに入って、2000年くらいまでほぼ横ばいが続きました。したがって61年に皆保険制度、皆年金制度が導入され、2000年に介護保険制度が導入されて、それ以降、急速に従属人口指数が跳ね上がっていったとき一定の準備が

できていた。40年の間に介護産業が生まれ、介護事業者が育ち、そうしたサービスが提供できるシステムができあがったのです。

しかしアジアの国々には、40年も時間をかける余裕はないんですね。おそらく10年から15年ぐらいでやらなければいけない。そこで、日本がAIやIOTを導入して自ら生まれ変わっていくと同時に、アジアの国々に持続性が高くコストパフォーマンスも良い制度をつくる支援ができるのではないかと考えたわけです。日本の支援によってアジアの国々が深刻な高齢者問題を抱えなくてすむようにする、これがアジア健康構想です。

医療は国際社会における成長産業

山田 別の視点でみると、新たな高齢者市場がアジアに形成されるということですね。

武見 とてつもなく大きな市場です。そこで、日本の医療事業者が資本力を高めて、経営能力も身につけて海外展開していく。これを実現する基盤として皆さんの会計監査が重要な意味を持てます。会計監査で足腰を強化した上でアジアに展開させていきたいと思っているのです。

すでに企業はこの分野に関心を持っていて、三井物産はベトナム、マレーシアを中心に大規模な病院経営に参画しています。セコムはインドで病院経営をして東南アジアへの展開も考えています。これらを国がもっとバックアップして医療、介護、福祉を一つの産業として対外的に展開していければと思っています。政府はODAや政府系の金融機関を使って支援し、民間は市場のメカニズムの中で地元のニーズに合ったサービ

スを提供していただきたいと思います。

山田 規模を拡大し、経営体制も備えた医療法人、社会福祉法人から海外展開していくイメージでしょうか。

武見 そうですね。たとえば八王子の北原病院は、今度ミャンマーに病院をつくります。こういう動きを我々は全面的にバックアップしています。医療の国際的的事业は今後どんどん大きくなりますよ。

梶川 国際的な最先端成長産業の発展に私どもも貢献させていただきたいです。

武見 ぜひ入ってください。皆さんが力を発揮できる分野がたくさんあります。実は私は最初、会計監査の持つ意味がよくわからなかった。でも一緒に勉強していくうちに、これは面白いと思いました。医療提供者側から見ていると見えない部分が会計監査で見えてくることに気がついて、それで社会福祉法人と医療法人の会計監査導入のお手伝いをしたんですよ。

梶川 ずいぶん前になりますね。

武見 最初は、梶川さんとは高校の同級生だから話を聞こうという程度だったのですが、やってみたらすごく価値のあることでした(笑)。

グローバル化で持続可能性を高める

梶川 今後は、日本の制度の非営利の良さや成長性のある営利事業をどういうふうにつないでいくかが課題ですね。社会福祉法人の設備投資は一部公的に援助されますが、一般企業は利益が出ないと次の設

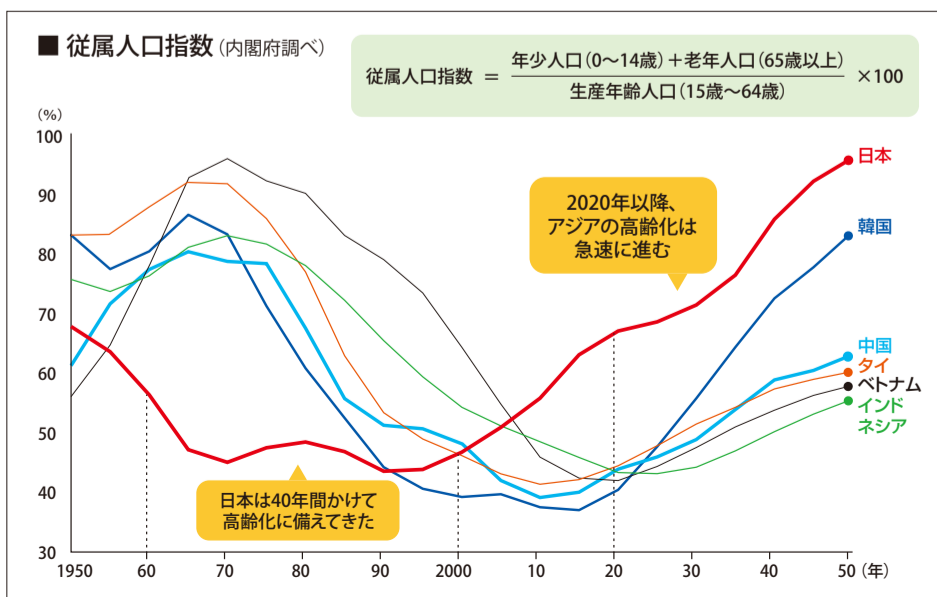
備投資ができないですから。

武見 難しいですね。同じ医療法人の中で、国内の機能と国際的な機能が違っているところの調整はまだ考えられていません。この問題は、インバウンドの患者をどう受け止めるかでも出てきます。在京の大使の方たちの話では、政権の指導者や家族がシンガポールやタイよりも日本で診てもらいたいと言って病院を紹介することが多いそうです。医療通訳がいるところが人気だと言っていました。

梶川 そういうサービスが民間でもできるよう財務基盤をどうつくっていくかですね。

武見 早く皆さんに入っていていただいて、国際展開するときの国内と国外の違いを踏まえて、どうすれば会計監査がうまくいくかを考えていただきたい。

我々は国内だけでは、もはや製薬会社も世界水準の医薬品の開発ができないし、世界水準の医療制度もできないと思っています。いまは、国内で必要とされる改革も、同時並行的にアジアを含めた国際展開で考えていかないと、国内制度の持続可能性を持つことは難しい。医療はこれの典型的な事例だとつくづく感じます。だから、国際的な新たなマーケットを確保していきたい。そして公的医療保険制度そのものの持続可能性を強化していきたいと思っています。山田 国際社会における日本の成長産業で、私たちも精一杯頑張らせていただきます。本日はありがとうございました。



「小林鷹之を囲む公認会計士の会」通常総会を開催

政治連盟千葉地方会

平成30年3月19日

「小林鷹之を囲む公認会計士の会」(牧野智成囲む会会長)第1回通常総会が千葉会事務所会議室にて開催された。千葉会会員の他、東京会からも多数の会員が出席した。活動報告、会計報告に続き、規約の一部改正案が承認された。

平成29年10月の衆議院選挙3期目当選について囲む会に対し御礼をいただいた後、国政報告では、監査報告書の透明化、監査法人ローテーションなど、公認会計士監査における様々な課題について取り上げられ、小林議員の関心の高さがうかがわれた。

また、現経済産業部会・部会長代理の立場から事業承継税制など税制改正についてお話をいただき、中小企業支援に特に力を入れていることをお話しいただいた。懇親会では参加者とプライベートのこともお話でき、和やかな時間を過ごすことが出来た。前防衛大臣政務官の実績から海外の重要な会議に派遣されるなど、幅広く活躍される小林代議士を千葉地方会として強力に支援していく所存です。



小林鷹之衆議院議員

「公認会計士による古川俊治後援会」

第6回定期総会及び懇親会を開催

政治連盟埼玉地方会

平成30年4月4日



古川俊治参議院議員

大宮・東天紅において、「公認会計士による古川俊治後援会」第6回定期総会及び懇親会が開催された。関根愛子協会会長、鈴木政連副会長(協会副会長)、浅井万富政連副会長(東京会会長)、後援会の坂本隆信会長など公認会計士31名が参加した。古川俊治参議院議員(自民、埼玉、当選2回)は、現在は参議院財政金融委員会理事として大いに活躍されている。定期総会は、土屋文実男後援会幹事長の司会、坂本後援会長の議長の下、すべての議案が了承された。古川議員からの国政報告では、先月開催された自民党金融調査会企業会計に関する小委員会テーマになっていた「ファームローテーションの問題」、「適正な監査報酬の問題」、「監査のAI化」などにつき小委員会においても的確な意見をいただいているが、今後の方向性等についてご報告があった。また、懇親会では、人生100年に向け生涯現役を目指しお互い頑張っていきたいとお話もあった。

古川議員は、来年夏の第25回参議院議員通常選挙を控えておられ、次回選挙では前回の得票数100万票を越すことを目標にされている。当後援会も古川議員の更なる活躍を期待し、今まで以上にご支援を行っていく所存ですので、地元在住の会員のご支援をお願いします。

「健政会朝食セミナー」に参加

平成30年3月14日

麹町・都市センターホテルにおいて、前参議院議員若林健太氏(公認会計士)の東京後援会である「健政会朝食セミナー」が開催された。森公高政連会長、鈴木昌治政連副会長(協会副会長)、柳澤義一政連副会長(協会副会長)など公認会計士10数名が参加した。

セミナーの講演者、岸信夫衆議院議員(自民、山口2区、国会対策委員会副委員長、議院運営委員会理事)から混迷する国会の状況などが話された。若林元議員からは、地元長野での積極的な政治活動を通じ、人の大切さをひしひしと感じており、次期衆議院選挙に向けてぶれることなく頑張っ



若林健太前参議院議員

ており、ご理解とご支援を賜りたいとの挨拶があった。当政治連盟は公認会計士業界の充実のためにも若林元議員をしっかりと応援して参ります。

「吉野正芳国政報告会」に参加

平成30年3月22日

麹町・ルポール麹町において、吉野正芳復興大臣の国政報告会が盛大に開催された。会場には、吉野復興大臣の選挙区である福島5区の支援者が120人、バス3台で駆けつけるなど吉野大臣への期待の大きさがうかがわれた。吉野大臣は早稲田大学在学時には日下部与一ゼミで監査論を勉強されており、後援会代表幹事の近野博会員をはじめ、公認会計士稲門会の方々も多数出席されていた。出席された国会議員の方

らの吉野大臣への励ましのお言葉の中でも、長年務めていただいている公認会計士制度振興国会議員連盟事務局長について触れられる部分があるなど、公認会計士制度の発展のため多大なご尽力をいただいているところである。

吉野議員からは、原発の廃炉を見る歳(100歳)まで、復興大臣としてはもちろんのこと、福島のため日本の再生のために一杯頑張っていくのご発言があった。



吉野正芳衆議院議員

古川元久議員と意見交換

平成30年4月3日

古川元久衆議院議員(希望の党、幹事長、愛知2区、当選8回)が来会され、関根協会会長、森政連会長と公認会計士をめぐる課題等について意見交換した。古川議員には、民主党時代から公認会計士制度の発展に大きな理解をいただいているところである。



古川元久衆議院議員

政治連盟会費の納付について (ご協力をお願い)

平成30年度の会費の納付にあたりましては、4月下旬に送付しました「払込取扱票」をご利用ください。(あすさ、あらた、仰星、新日本、太陽、トーマツ、東陽の各監査法人所属の方々には、法人本部を通してお願いしております。)

政治連盟会費(年額)

公認会計士12,000円

準会員1,200円

なお、会費の納付に便利な「預金口座自動振替」制度(年1回引落し)をご利用ください。

【お問合せ】日本公認会計士政治連盟事務局 ☎ 03-3515-1155 FAX 03-5226-3354